

キリスト教礼拝音楽学会 第16回大会案内

★テーマ：19世紀以降の英国の教会音楽

★日時：2016年5月28日(土)
10:00-16:30

★会場：立教学院諸聖徒礼拝堂/マグノリア・ルーム
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
連絡先携帯 090-4223-0805 (手代木)

★主催：キリスト教礼拝音楽学会

★会費：会員¥3,000 非会員¥4,000



●アクセス
JR各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線
／有楽町線／副都心線「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分。

●プログラム

会場：マグノリア・ルーム

9:30—	受付	総司会	伊東辰彦
10:00—	挨拶	会長	伊東辰彦
10:05—	研究発表		佐々木悠
10:30—	研究発表		川瀬麻衣
10:55—	休憩		
11:00—	講演「英国ロマン派のオルガン」	ショウ・スコット	
12:00—	リードオルガン説明		赤井 励
12:10—	休憩 マグノリア・ルームのヤマハリードオルガン試奏		

会場：チャペル

13:30—	総会		
14:00—	演奏「英国のオルガン音楽」	崎山裕子、ショウ・スコット	
15:00—	休憩		
15:30—	演奏 「アングリカン教会の聖歌隊音楽」	立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊、 ショウ・スコット、崎山裕子	
16:30—	会長閉会挨拶		伊東辰彦

参加申込：5月6日(金)締切・厳守

大会案内の申込書に記入し、下記宛、郵送で、お申し込みください。

多くの方のご参加をお待ちいたしております。参加費は新しい口座「キリスト教礼拝音楽学会 郵便振替口座 01360-5-91714」に大会費と明記しお振込みください。

申込先：〒145-0071 東京都大田区田園調布2-48-12-501 手代木方 キリスト教礼拝音楽学会大会係
Tel: 03-3721-0891 (手代木) E-mail: gammo@ka2.so-net.ne.jp

立教学院、C. M. ウィリアムズ、そして彼の翻訳聖歌

手代木俊一

キリスト教礼拝音楽学会の2016年度大会は立教大学で開催される。立教学院は1874年築地開市場内に開いた私塾に始まり、学校の体制が整った1899年、立教学院と称するようになった。その後池袋に移転、1922年には大学令による大学が認可された。1990年には新座キャンパスが開校。現在10学部、約2万人を擁する大学と小学校、2つの中学校・高等学校によって構成される大規模な学校法人となっている。この立教学院を創設したのは、アメリカ聖公会宣教師C. M. ウィリアムズであった。

C. M. ウィリアムズ(1829.7.18-1910.12.2)は1859年に来日(長崎)、日本における聖公会系最初の宣教師とあってよく、在英米人礼拝堂のチャプレンとなり、日本人に英語を教授して伝道を始めた。1872年に大阪に英和学舎を創設し、1874年に立教学校を設立し、同年初代日本伝道専任主教となった。1887年英米聖公会3ミッションの協同をはかり日本聖公会を組織した。彼は祈禱書等各種教義書のほとんどすべてを訳編し、日本聖公会の礎をになった。

C. M. ウィリアムズの功績の中であまり知られることのないものとして讃美歌の翻訳があげられる。おそらく聖公会のなかで、それどころか日本の讃美歌史のなかで最も古い讃美歌と考えられる。日本聖公会系では「hymn」を「聖歌」と訳しているので以下は「聖歌」という言葉を使用する。私事にわたって恐縮だが、わたくしは現在立教大学立教学院史資料センターで、C. M. ウィリアムズ旧所蔵資料、書簡、関連資料の書誌作成、デジタル化を行っている。

さて、明治5~7年頃ウィリアムズが訳したとされる聖歌が現在7篇知られており、うち4篇は歌詞の内容も伝わっている。しかしその内の2篇がどの聖歌から訳されたか特定されていなかった。ウィリアムズ訳として知られる《世々岩ハレテ》、及び《エスヲ地ノ主トセン》に触れ、原歌詞が何であるか特定されていない2篇の聖歌の原歌詞をあきらかにし、残り3篇の聖歌についても検討を加えたい。そしてウィリアムズ訳聖歌がその後の日本の聖歌・讃美歌に及ぼした影響、特に日本の讃美歌に大きな貢献をした日本基督教会牧師の奥野昌綱とアメリカ長老派宣教師ヘンリー・ルーミスに与えた影響について触れたい。

C. M. ウィリアムズと聖歌に関する記述はきわめて少ない上に、大江満氏によればウィリアムズ自身が書簡等に翻訳した聖歌に関して記録を残していないとのことである。また、明治初期に聖歌を翻訳したが、その後の聖公会の聖歌の翻訳、作詞、作曲、聖歌集の編集にはウィリアムズはまったく関わっていない。

明治5年頃、C. M. ウィリアムズが5篇の聖歌を翻訳したという記述『*Rock of ages*』《よ、いわわれて》を訳し、続いて《われをばたのまじ》、《なみかせのあらき》、《われのかみに》、《十字架にかかりし》等を訳された」が元田作之進著『老監督ウィリアムズ』に存在する。しかも同書には《*Rock of ages*》の日本語

訳が歌われたことが、明治6年3月14日付モリス書簡の一節に存在することが書かれている。大阪時代に《よ、いわわれて》を訳し、築地に来てから《われをばたのまじ》、《なみかせのあらき》、《われのかみに》、《十字架にかかりし》等を訳したのであろうか。これは、明治7年の『た、へのうた』(エヴィントン著)よりもはやく、日本聖公会聖歌の嚆矢といえるであろう。しかし残念ながらどのような訳詞であったか、また原歌詞の記述もなく、どのような聖歌であったか知ることはできず、伝聞だけが残っていた。

昭和40(1965)年に、矢崎健一氏は『手写本『早晚禱文・利多仁伊』について』『立教大学研究報告・人文科学』第18号(昭和40[1965]年9月)をあらわし、手写本をタイプライターによって打ちかえたものから4篇の聖歌(《十字架ニカケラル》《世々岩ハレテ》《エスヲ地ノ主トセン》《アマ使ガウタウホメヨ生レシ王》)を活字化した。これにより元田作之進の『老監督ウィリアムズ』記載の《よ、いわわれて》、《十字架にかかりし》の歌詞を知ることができるようになった。また矢崎健一氏はこの論文でこの聖歌4篇の訳者がウィリアムズであることを明らかにしている。ここにその4篇の1節を転載する。

- | | |
|--|---|
| 1、十字架ニカケラル
ワカキミミルトキ
世ノトミリアラス
タカブリナサマシ | 2、世々岩ハレテ
ワカ身ヲカクセ
キツセシ脇ニ
ナカシシ水血
ツミヨリ救フテ |
| 3、エスヲ地ノ主トセン
アマネクソヲサメン
ソノマツリコトハ
カキリナクアレナ | 4、アマ使ガウタウホメヨ生レシ王
カミト人シタシム地ニハ太平アル
クニグニタチテカチドキアハセ
アマ使トイヘヨベツレヘムニ生ルト |

また別のルートからこの《よ、いわわれて》が今井丞治司祭によって『礼拝研究』No. 3(昭和59[1984]年)で紹介された。今井氏はロンドン、ウェストミンスター・USPG(合同福音宣教協会)の資料室で1874年6月23日付W. B. ライト書簡の中からローマ字で書かれた《よ、いわわれて》を発見した。この書簡の発見により明治7年には《*Rock of ages*》の翻訳聖歌《よ、いわわれて》が存在したことが明らかになった。

さて、《世々岩ハレテ》は《*Rock of Ages*》の翻訳であることは判明しているが、他の聖歌は何から訳されたものなのだろうか。次に展開してみたい。

現存する日本聖公会の聖歌集の最も古い聖歌集は明治9(1876)年の『使徒公會之歌』(W. B. ライト編)であるが、『使徒公會之歌』に収録された26曲の聖歌には《*Rock of Ages*》の訳もなく、ウィリアムズ訳聖歌は受け継がれなかった。W. B. ライトはSPGなので、ウィリアムズと同じアメリカ聖公会のチング編『聖公會歌集』(明治16[1883]、明治17[1884]、明治20[1887]年)収録聖歌を見てもウィリアムズ訳聖歌の系譜

はみとめられない。既に10年以上たっているからであろうか。あくまで試訳して手元においておいたもので、公開はされなかったものなのであろうか。

翻訳から原歌詞を特定すると、《エスラ地ノ主トセン》はアイザック・ウォッツの《Jesus shall reign where'er the sun》の翻訳であろう。また矢崎氏が指摘しているように《エスラ地ノ主トセン》と同様の訳《エス地の主とならん》が『教のうた』(明治7 [1774]年)に収録されており、これはアイザック・ウォッツの《Jesus shall reign where'er the sun》の翻訳であることがあきらかになっている。

翻訳歌詞の内容から《十字架ニカケラル》は、これもアイザック・ウォッツの《When I survey the wondrous cross》で、《アマ使ガウタウホメヨ生レシ王》はチャールス・ウェスレーの《Hark, herald angels sing》であろう。

原歌詞の第1節と翻訳を対比する。

1、十字架ニカケラル ワカキミルトキ 世ノトミリアラス タカブリナサマシ	When I survey the wondrous Cross On Which the Prince of Glory died, My richest gain I count but loss, And pour contempt on all my pride.
2、世々岩ハレテ ワカ身ヲカクセ キツセキ脇ニ ナカシシ水血 ツミヨリ救フテ 我ムネアラハ	Rock of Ages, cleft for me, Let me hide myself in thee; Let the Water and the Blood, From Thy wounded Side which flowed, Be of sin the double cure, Save from wrath, and make me pure.
3、エスラ地ノ主トセン アマネクソヲサメン ソノマツリコトハ カキリナクアレナ	Jesus shall reign where'er the sun Doth his successive journeys run; His kingdom stretch from shore to shore, Till moons shall wax and wane no more.
4、アマ使ガウタウ ホメヨ生レシ王 カミト人シタシム 地ニハ太平アル クニグニタチテ カチドキアハセ アマ使トイヘヨ ベツレヘムニ生ルト	Hark! the herald-angels sing Glory to the new-born King, Peace on earth, and mercy mild, God and sinners reconciled. Joyful, all ye nations, rise, Join the triumph of the skies; With the angelic host proclaim Christ is born in Bethlehem. Hark! the herald-angels sing Glory to the new-born King.

試訳のためか《十字架ニカケラル》《アマ使ガウタウホメヨ生レシ王》では原歌詞と翻訳が対応していない部分があるが、《十字架ニカケラル》は、アイザック・ウォッツの《When I survey the wondrous cross》で《アマ使ガウタウホメヨ生レシ王》はチャールス・ウェスレーの《Hark, herald angels sing》からの翻訳と考えて間違いのないであろう。

ここで矢崎健一著「手写本『早晚祷文・利多仁伊』」に紹介された《エスラ地ノ主トセン》と奥野・ルーミス訳《エス地の主とならん》を比較したい。

ウィリアムズ訳

エスラ地ノ主トセン
アマネクソヲサメン
ソノマツリコトハ
カキリナクアレナ

奥野昌綱・ルーミス訳『教のうた』

一 エス地の主とならん
あまねくおさめなん
そのまつりごとは
かぎりなくあれな

2つの翻訳讃美歌を比較すると奥野昌綱・ルーミス訳とされる《エス地の主とならん》はウィリアムズの試訳を改訳したというより、多少の変更を加えたとはいえほとんどそのまま使用している。おそらく奥野・ルーミスはウィリアムズ訳聖歌を所持しており、それに手を加えたのではあるまいか。

元田作之進著『老監督ウィリアムズ』に書かれている他の3つの聖歌《われをばたのまじ》、《なみかせのあらき》、《われのかみに》はどの聖歌を訳したものであろうか。明治期、この3つの聖歌と同じ初行の讃美歌が他の教派の讃美歌集に収録されている。特に一致教会系『教のうた』(明治7 [1874]年)にはこの3篇とも収録されており、奥野・ルーミス訳として伝わっている。その歌詞は以下のとおりである。

第九

一 われをばたのまじ エスわれをよべり	じうじかにのほりし われキリストにゆく
二 われはまちをらで つみをあらはんため	エスにこそすがれ われキリストにゆく
三 われはつねにまよふ うれひはうちそと	しばしばぞうたがう われキリストにゆく
四 われらのまづしさ エスみないやせば	めしひとなやみは われキリにストにゆく
五 エスはわれをいれん しんずればやすません	きよくしてむかへん われキリストにゆく
六 エスわれをあいして まことにそむかで	めぐめばこそつかへ われキリストにゆく

第六

一 われのかみに よしやうれひ われうたふべき ちかづかまし	ちかづかん しのびなん われのかみに ともならん
二 さまようまに めさへくらみ いはのまくら かみとわれや	われらも なほうたふ ねむらるときは あらんかも
三 われのほりて かみのみわざ かみのつかひ われのかみに	てんにゆかん よくあらん われをまねき ともなはん

第七

一 なみかせあらき のがるべきところ	うきよをたちさり あはれみのしたぞ
二 あ、エスとわれらが このちにまさりし	よろこぶところわ めぐみのみざなり
三 みなしんかうによりて すみかへだつとも	もろともにつどへ みぎのもとふしあふ
四 よろこびてのほる てんこくのさかえぞ	つみやうれひなく めぐみあるところ

《われをばたのまじ》、《なみかぜのあらき》、《われのかみに》の原歌詞の初行は奥野・ルーミス訳では《Just as I am, without one plea》、《From every stormy wind that blows》、《Nearer, my God, to Thee》と伝わっている。原歌詞と翻訳を対比すると確かにそれぞれ翻訳の讃美歌であることが認められる。

奥野・ルーミスとウィリアムズの訳が初行では一致しているが、別々の場所で異なる人間が翻訳して偶然に一致するものであろうか。すなわち、「Just as I am, without one plea, But that thy blood was shed for me」から「われをばたのまじ じうじかにのぼりし」という訳が、「From every stormy wind that blows, From every swelling tide of woes」から「なみかぜのあらき うきよをたちさり」、「Nearer, my God to Thee, Nearer to Thee」から「われのかみに ちかづかん」という訳が別々の人間が翻訳して偶然生まれるものであろうか。前述のウィリアムズ訳《エスヲ地ノ主トセン》と奥野・ルーミス訳《エス地の主とならん》の比較からもウィリアムズが最初に訳し、それに奥野・ルーミスが手をいれたと考えても構わないではないだろうか。しかし残念ながら奥野・ルーミス訳とされる翻訳歌詞は伝わっているが、ウィリアムズ訳は初行のみが知られるだけで全文は発見されていない。

また、《われをばたのまじ》、《なみかぜのあらき》、《われのかみに》とともに《エスヲ地ノ主トセン》の改訳と思われる《エス地の主とならん》も『教のうた』に収録されている。ウイ

リアムズ訳の《十字架ニカケラル》の原歌詞《When I survey the wondrous cross》も奥野昌綱は《サカエノキミノ》『聖書之抄書』(明治7 [1874]年収録)として訳している。また《よよいわわわわわ》は奥野・ルーミス訳ではないが、《われたるいわや》(本田・バラ訳)として『教のうた』に収録されている。すなわち元田作之進の『老監督ウィリアムズ』に紹介された5篇の日本聖公会の聖歌は奥野・ルーミス、本田・バラ訳として一致教会系の讃美歌集『教のうた』にすべて登場するのである。単なる偶然であろうか。讃美歌・聖歌の歴史ではいままでに奥野・ルーミス訳とウィリアムズ訳の関連は言及されたことはなく、奥野昌綱・ルーミス訳とされる《エス地の主とならん》に関しても、ウィリアムズはなにも述べていない。『教のうた』に収録されている《Jesus shall reign where'er the sun》、《Just as I am, without one plea》、《From every stormy wind that blows》、《Nearer, my God, to Thee》の訳はルーミスと奥野が独自に訳したものと伝えられているが、両者に深いつながりがあることは間違いないと思われる。

上記は、「日本聖公会最初の聖歌、C. M. ウィリアムズ訳の聖歌をめぐって」『立教学院史研究』第4号(立教大学学院史資料センター 平成18 [2006]年3月)を要約、加筆、訂正したものである。

(当学会副会長)

★役員会報告

- ①日 時：2015年11月29日(日) 14:00-15:30
場 所：奏かなで(池袋：東京芸術劇場2F)
出席者：赤井、新垣、伊東、手代木
議 題：第16回大会について、学会誌、ニュースレター、
会則改正について
- ②日 時：2016年2月20日(日) 14:00-15:00
場 所：奏かなで(池袋：東京芸術劇場2F)
出席者：赤井、金澤、手代木
議 題：ニュースレター、第16回大会について

★学会誌発行予定

第15号 学会誌..... 4月半ば刊行予定

- 内容・巻頭言・・・伊東辰彦
・論 文・・・手代木俊一・仲座巖、
新垣壬敏、川瀬麻衣、佐々木悠
・研究ノート・・・手代木
・第15回大会プログラム・報告・・・伊東辰彦

★会員出版物の案内

募集 編集委員会より会員の最新刊行物を掲載し、皆様に

ご紹介したいと思います。編集委員(手代木、佐々木宛)までお知らせください。

★会費納入のお願い

会の運営に対して、いつも支援をいただき感謝申し上げます。2015年度会費、また、2014年度の会費をまだ納入されていない方は、ぜひ**新しい口座「キリスト教礼拝音楽学会 郵便振替口座 01360-5-91714」**にお振込みくださいますようお願い申し上げます。会計係りの佐々木が広島に引っ越したため、振込口座が変更になりました。

会費等問い合わせ先(佐々木)

新住所: 〒730-0004 広島市中区東白島町19-87-2006
Mail: sshinobuorg@ybb.ne.jp TEL082-836-3173

入会金：3,000円(入会時のみ)
年会費：正 会 員 6,000円
準 会 員 3,000円
賛助会員 20,000円

- 振込用紙には* ____年度/正・準・賛助会員/会費 _____を必ず明記の上、ご送金ください。
- 住所変更等も、ぜひお知らせください。